



空の移動革命への挑戦

～ 日常的に空を活用する未来を目指して ～



2026年2月
株式会社SkyDrive
運航企画グループ 坂牧隆夫

1

SkyDrive 会社概要

Mission & Vision

Our Mission

100年に一度の
Mobility革命を牽引する。

Taking the lead in the once-in-a-century mobility revolution

Our Vision

空を、走ろう。

Beyond Drive.

開発拠点マップ



山口飛行試験場

- 山口県山口市
- 中高速飛行試験場
- '25/3~

Toyota Test Field (TTF)

- 愛知県豊田市
- 試験場
- '19/5~



Toyota Base (TB)

- 愛知県豊田市
- 飛行試験場
- '24/4~



名古屋空港オフィス (NAO)

- 愛知県西春日井郡 (県営名古屋空港)
- 開発 (設計中心)
- '23/11~



Sky Works (SW)

- 静岡県磐田市
- 製造
- '24/2~

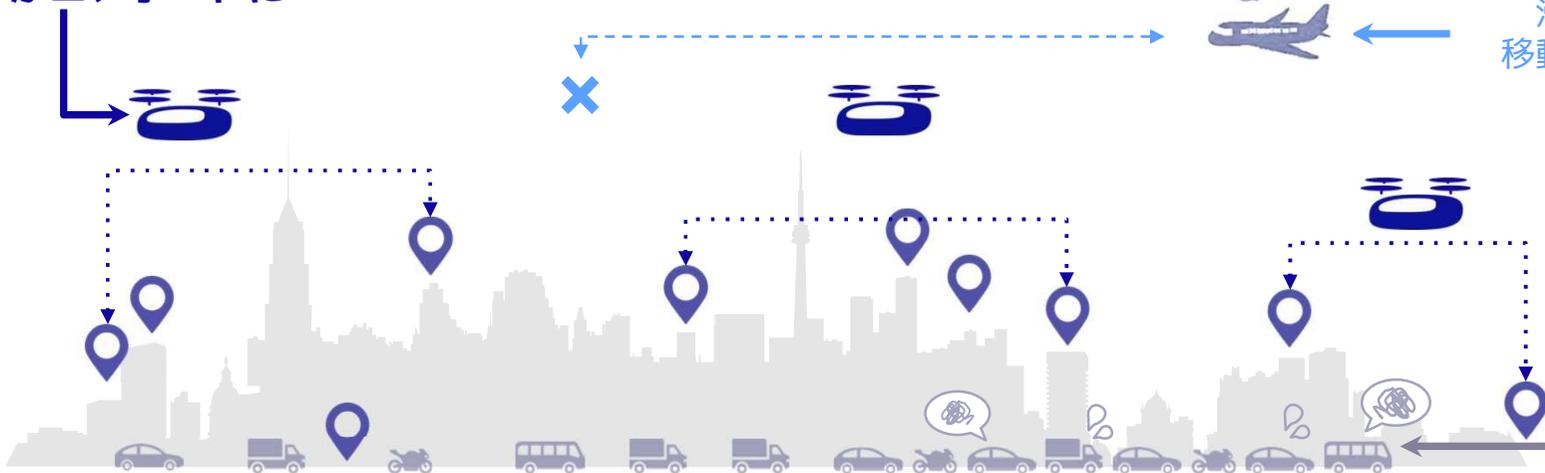
2

「空飛ぶクルマ」とは

空飛ぶクルマとは：自動車のように、日常的に気軽に使える空のモビリティ

空飛ぶクルマ

滑走路不要で小型のため
ビルの屋上含め、街のいたるところがエアポートに



飛行機

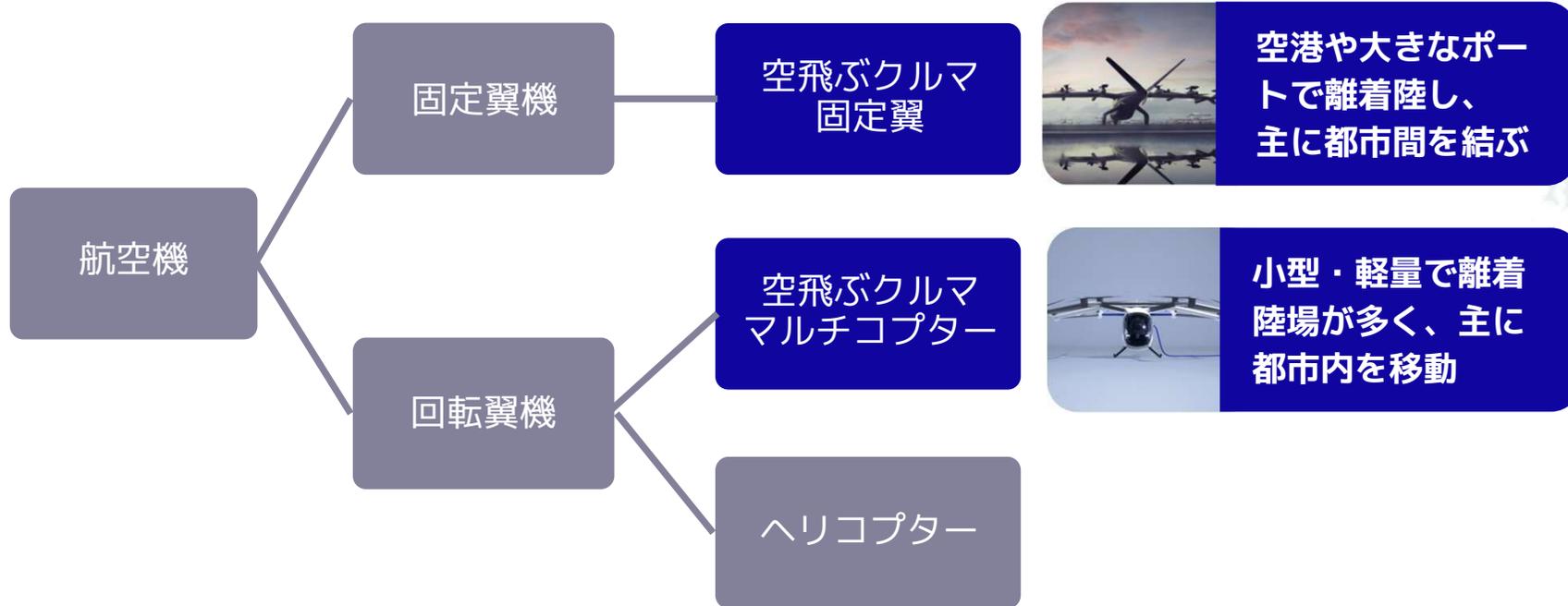
滑走路が必要のため
移動可能場所に制約あり

自動車

渋滞による移動の
長時間化

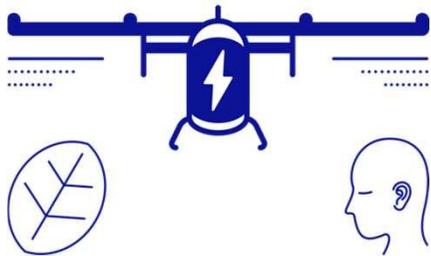
空飛ぶクルマの航空法上の分類

空飛ぶクルマは航空法上「航空機」であり、既存の航空法カテゴリーを変更せずに認証取得可能



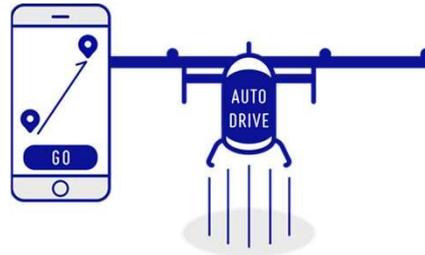
空飛ぶクルマの特徴と利点

電動



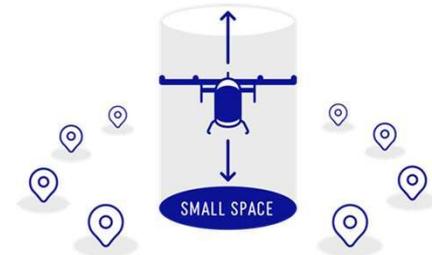
低コスト
低騒音
CO2排出ゼロ

自動/自律飛行



簡単に操縦可能
将来的に自律飛行も可能

垂直離着陸

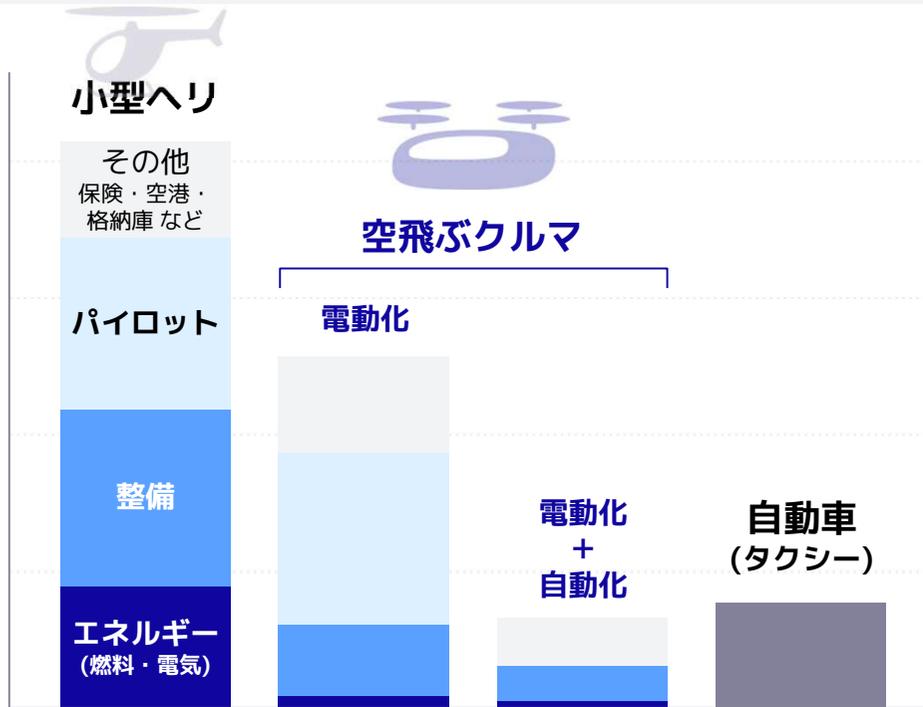


インフラ小
点から点への移動

騒音・飛行難易度・機体価格が
既存の「航空機」ではなく「自動車」に近づき
空の日常利用を可能にする

自動化で、より低コストに

運航コスト

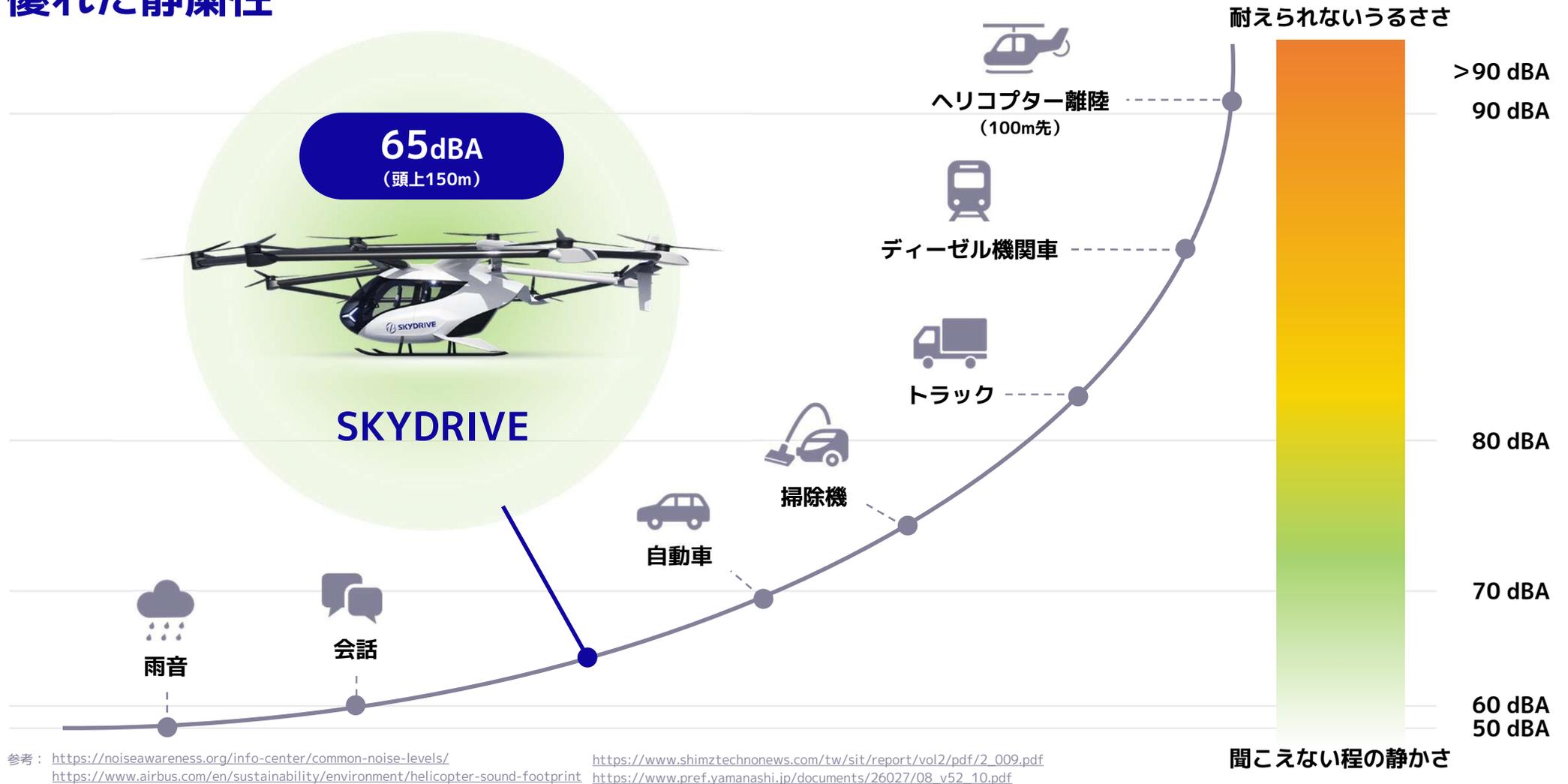


出典：経済産業省「製造業を巡る現状と政策課題」

電動化と自動化により
パイロット費・整備費
エネルギー費が格段に安くなる

サービス提供価格を
安くできる

優れた静粛性



参考: <https://noiseawareness.org/info-center/common-noise-levels/>
<https://www.airbus.com/en/sustainability/environment/helicopter-sound-footprint>

https://www.shimztechnonews.com/tw/sit/report/vol2/pdf/2_009.pdf
https://www.pref.yamanashi.jp/documents/26027/08_v52_10.pdf

多くの場所で離着陸できる

離着陸に要する空域

空飛ぶクルマ

垂直に離着陸できるので

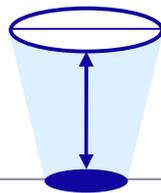
直径約50mあれば離着陸が可能

2022年で想定される将来のeVTOL基準

出典：EASA PTS-VPT-DSN



直径 約50m
(上空30m)



ヘリコプター

1/8の勾配が必要なので

周囲に高いビルや樹木がある
場所では離陸できない



直径 約500m
(上空30m)



狭い場所でも離着陸できる



地上や低層ビルの屋上など

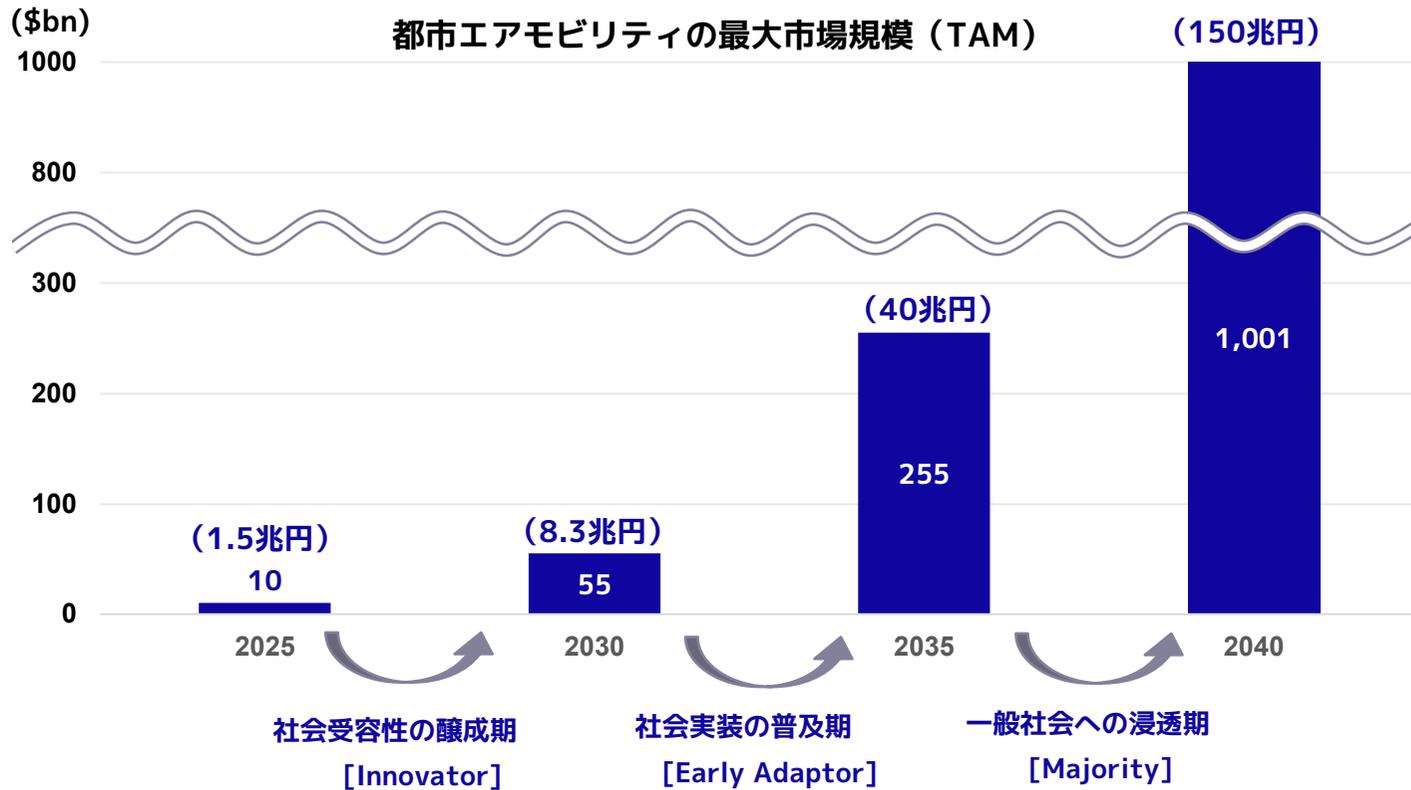
多くの場所を

ポートにできる



空飛ぶクルマの世界市場規模見通し（TAM*ベース）

空飛ぶクルマの世界市場規模は、2030年頃から急拡大し2040年には**1兆ドル（約150兆円**）**に達する見込み



出所：Morgan Stanley "eVTOL/Urban Air Mobility TAM Update (May 6, 2021)
 *TAMは最終消費者に対する運航サービス収入ベースで試算
 **\$1=¥150換算

政府の方針として「空飛ぶクルマ」が明記

■ 第2回 日本成長戦略会議（例示）

日本の国際競争力を左右する航空・宇宙分野の検討テーマ案として、空飛ぶクルマが具体的に例示

新設		⑤航空・宇宙：航空・宇宙WG	
体制		今後の予定	
WG長	内閣府特命担当大臣（経済安全保障）	2026年	
構成員		○1月22日	
青木 節子	千葉工業大学審議役・特別教授	第1回：論点整理①、企業ヒアリング	
松尾 亜紀子	慶應義塾大学理工学部教授	○2～3月	①
山崎 直子	Space Port Japan代表理事	第2回：論点整理②、議論	
中須 賀真一	東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻教授	○4月	②
石田 真康	SPACETIDE代表理事兼CEO	【検討テーマ案（例示）】	
白坂 成功	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授	（航空）	③
遠藤 典子	早稲田大学大学院教授	・ 完成機事業を目指した実証プロジェクトの組成	
鈴木 真二	東京大学名誉教授／特任教授	・ 国産無人航空機の市場創出・拡大に向けた研究開発・制度整備	④
土屋 武司	東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻教授	・ 空飛ぶクルマの初期市場形成に向けたビジネスモデル検証及び制度整備等の包括的検討	
山岡 建夫	日本航空宇宙工業会常務理事	（宇宙）	⑤
		・ 宇宙分野の民間資金活用促進フレーム	
		・ 官民ロケット打ち上げ回数目標※達成に向けた射場等確保策 ※2030年代前半までに30回/年	
		関係行政機関（特段記載のないものは局長級）	
		府宇宙、総務省、文科省、経産省、国交省、防衛省	

以下の既存委員会・部会のメンバーで構成。
 ①宇宙政策委員会（府宇宙）、②宇宙開発利用部会（文科省）
 ③宇宙産業小委（経産省）、④航空機産業小委（経産省）、⑤航空科学技術委員会（文科省）
 ※一部委員は複数委員会を兼職

日本成長戦略会議（第2回）での例示（2025年12月24日）
 【資料】成長戦略の検討体制 2025年12月 7ページ記載

■ 地方創生に関する総合戦略（閣議決定）

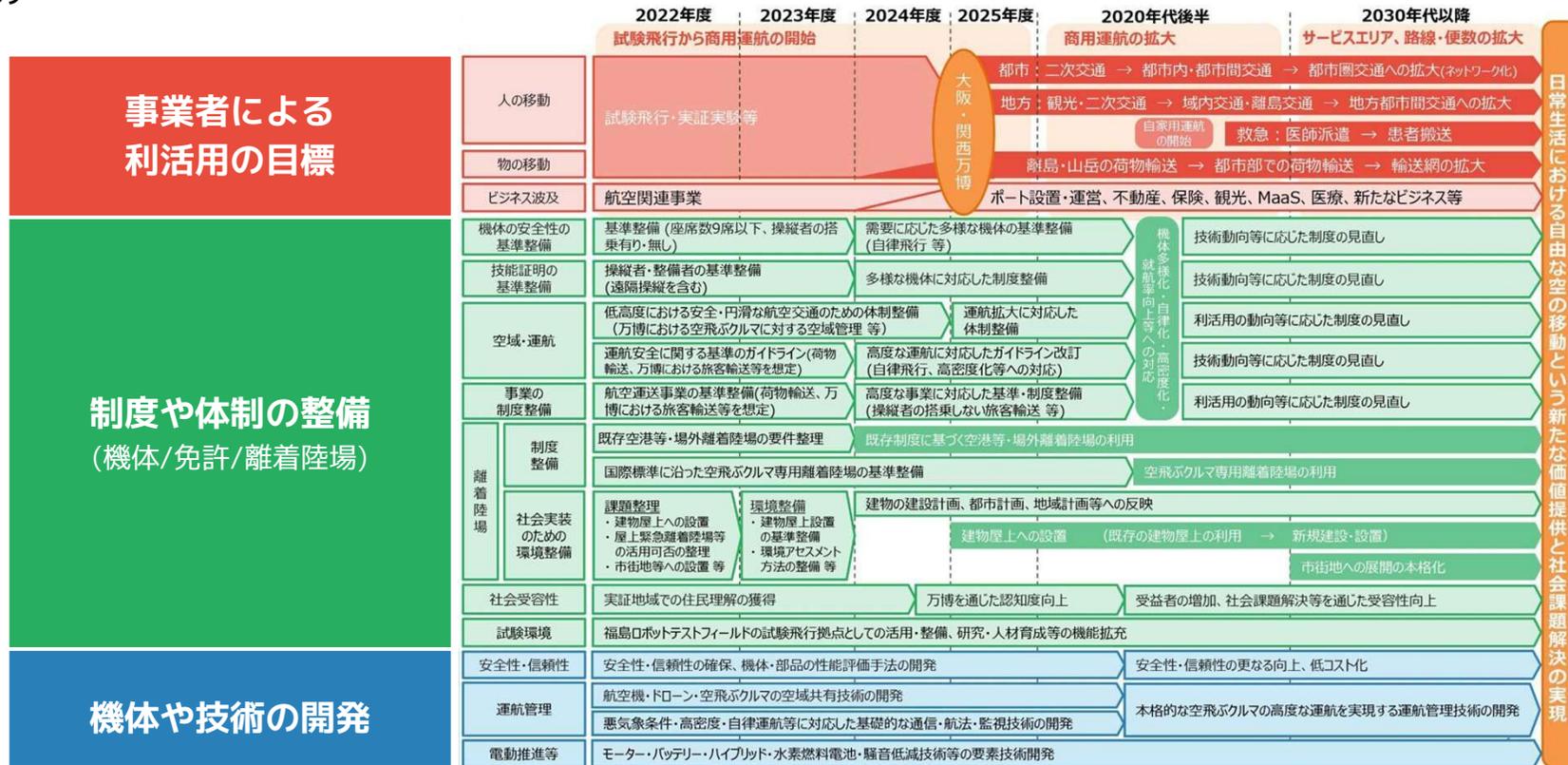
「豊かな生活環境」および「持続可能な生活インフラの実現」の項目において、地域課題を解決する次世代モビリティとして明記。離島や山間部における移動利便性の向上や、観光振興の切り札としての活用が期待される

(40) 自動運転の拡大に向けた調査研究	自動運転の拡大に向けて、自動運転システムに応じた交通関係法規上の課題や制度の在り方等に係る調査・検討を行い、必要な措置を講ずる。
(41) 空飛ぶクルマの社会実装	都市部や離島・中山間部等での新たな移動手段、観光地での遊覧飛行、災害時の救急搬送等、新しいサービスの展開や都市や地方における課題の解決に向けて、機体の安全性、操縦者の技能証明、機体の運航、交通管理、離着陸場等に関する環境整備等を行い、広域的なネットワークや都市内の運航等を実現し、空飛ぶクルマの社会実装を推進する。
(42) 広域的な観点からの集約・再編	インフラが有する安全・安心の確保、生産性向上、生活の質の向上等の効果が将来にわたって持続的に発揮されるよう、まちづくり計画とイ

「地方創生に関する総合戦略」の閣議決定（2025年12月23日）
 【資料】地方創生に関する総合戦略 120ページ記載

空の移動革命に向けたロードマップ

「空の移動革命官民協議会（2022.3.18）」にて定められた、空飛ぶクルマなどによる身近な空の移動手段の実現が、都市や地方における課題の解決につながる可能性に着目し、官民が取り組んでいくべき技術開発や制度整備等についてまとめたもの



出典：経済産業省「空の移動革命に向けたロードマップ(改訂案)」 https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/air_mobility/pdf/008_01_02.pdf

3

空飛ぶクルマ（有人機）事業



2025年夏、約1カ月半に渡るデモフライトは世界でも例を見ない

- ・ 2025年の7月末～9月中旬、大阪・関西万博会場および大阪港バーティポートの2か所にてデモフライトを実施
- ・ 住宅や店舗等が至近の都市部での18日間のデモフライトの完遂は、世界でも他に例を見ない実績

大阪・関西万博会場でのデモフライト



住宅や店舗が至近の都市部でのデモフライト



バイエリアにOsaka Metroが整備した「大阪港バーティポート」が完成

空飛ぶクルマの整備や待機などを行う格納庫、空飛ぶクルマの離着陸帯、顔認証チェックインや待機場所となる旅客施設がある他、オンデマンドバスなどのモビリティとの結節点となる機能を備えた「大阪港バーティポート」が2025年3月に完成



大規模イベントでの展示・体験を通じ、未来の移動が身近に

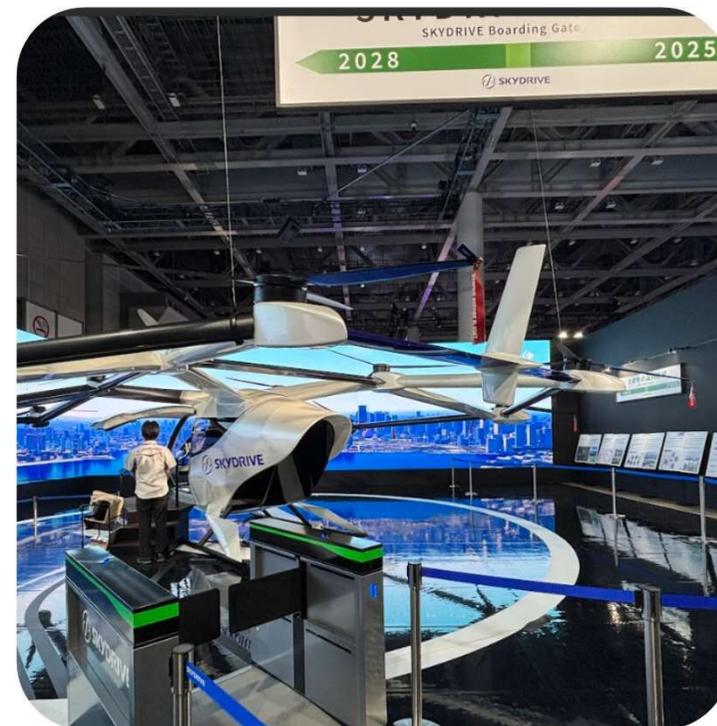
- 大阪・関西万博：「空飛ぶクルマ ステーション」の展示・搭乗体験で、**143万人の来場者を達成**
- Japan Mobility Show 2025：「改札を通る」リアルな搭乗体験の提供で、連日のブースは盛況

大阪・関西万博会場には143万人が来場

Japan Mobility Showでは鉄道コラボ



※ご本人の承諾を得て撮影・掲載しています



SKYDRIVE（SD-05型）の特長と基本仕様

騒音

（ヘリコプター比）

1/3 以下

重量

（ヘリコプター比）

1/2 以下

価格

（双発ヘリコプター比）

1/3 以下

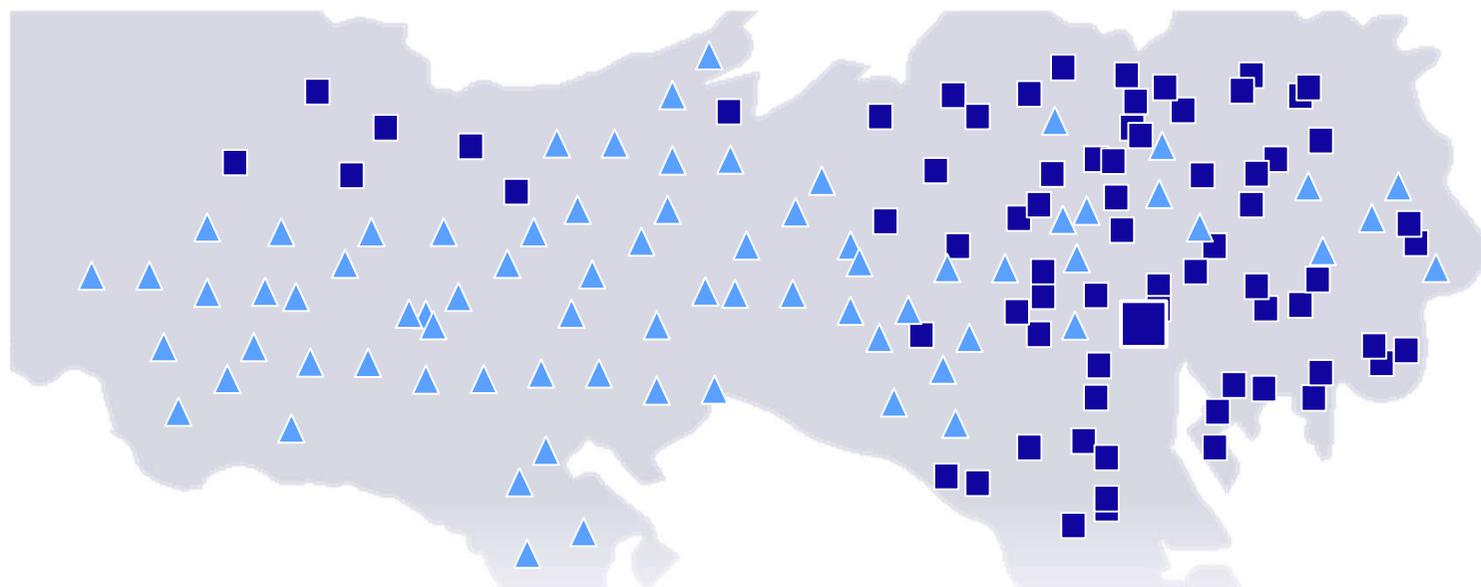
基本仕様

最大搭乗人数	3名（操縦士1名+乗客2名）
機体サイズ （全長×全幅×全高）	11.5 m × 11.3 m × 3 m （ローターを含む）
駆動方式	12基のモーター・ローター
最大離陸重量	約1,400 kg
最大巡航速度	100 km/h（対気速度）
航続距離	15 ~ 40 km



東京都におけるVポート候補地推計

■ ヘリコプターと比較し、騒音・重量・安全性の要件を満たすことから多くの場所で離着陸可能



■ ビル屋上のヘリポート (H)
 ▲ その他屋上設備 (屋上駐車場など)
 合計数

ヘリコプター 1 / 70 0 / 75 1 / 145

SKYDRIVE **70 / 70** **75 / 75** **145 / 145**

都内の離着陸可能性のあるビルの数

SKYDRIVE

凡そ**145**ヶ所以上

ヘリコプター

1ヶ所

主要ターゲット市場

特に人が集中して交通課題が常時発生している地域に着目し、社会実装の進展に伴い、eVTOL利用は段階的に拡大

社会受容性の向上

インフラ・法整備進展

サービス提供価格の低廉化



③都市内移動



主要世界25都市
年間タクシー乗客数

42億人

混雑・渋滞比率の高い主要都市における車移動に代わる新たな選択肢としてeVTOLの利用普及へ

②空港⇔目的地移動（ラストテンマイル）

主要世界10空港 年間旅客数

8.1億人

空港・目的地間移動において、ビジネスクラス利用客を中心にeVTOLを利用へ

①遊覧

主要世界20観光都市 年間観光客数

2.5億人

観光地における“上空から楽しむ”新たな体験価値を提供

商用航路の航続距離の進化

UPDATE VISION

2028~

SD-05-01

乗客2名，航続距離15 km



2031~

SD-05-02

よりエネルギー密度が高いバッテリー採用
乗客2名，航続距離30 km



2033~

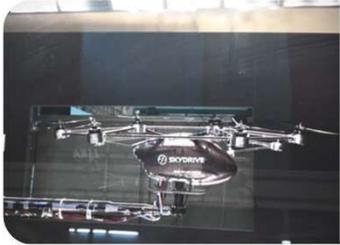
SD-05-03

自動運転に対応
乗客3名，航続距離40 km



安全性

SkyDriveは製品と飛行に関わるすべての人々のために、航空安全を最優先としている



Tests / Manufacturing

- ・ 数千項目に渡る部品テスト・シミュレーション・飛行試験を実施
- ・ 設計・製造・試験・機体納入後の安全を一貫して担保する、Safety Management Systemを構築



Certifications

- ・ グローバル当局(JCAB・FAA等)が定める基準に沿い、既存の航空機レベルの安全性の機体を開発
- ・ 早ければ2026年にJCABの型式証明取得を目指し、その後すみやかにFAAの型式証明取得を目指す



Aircraft Design

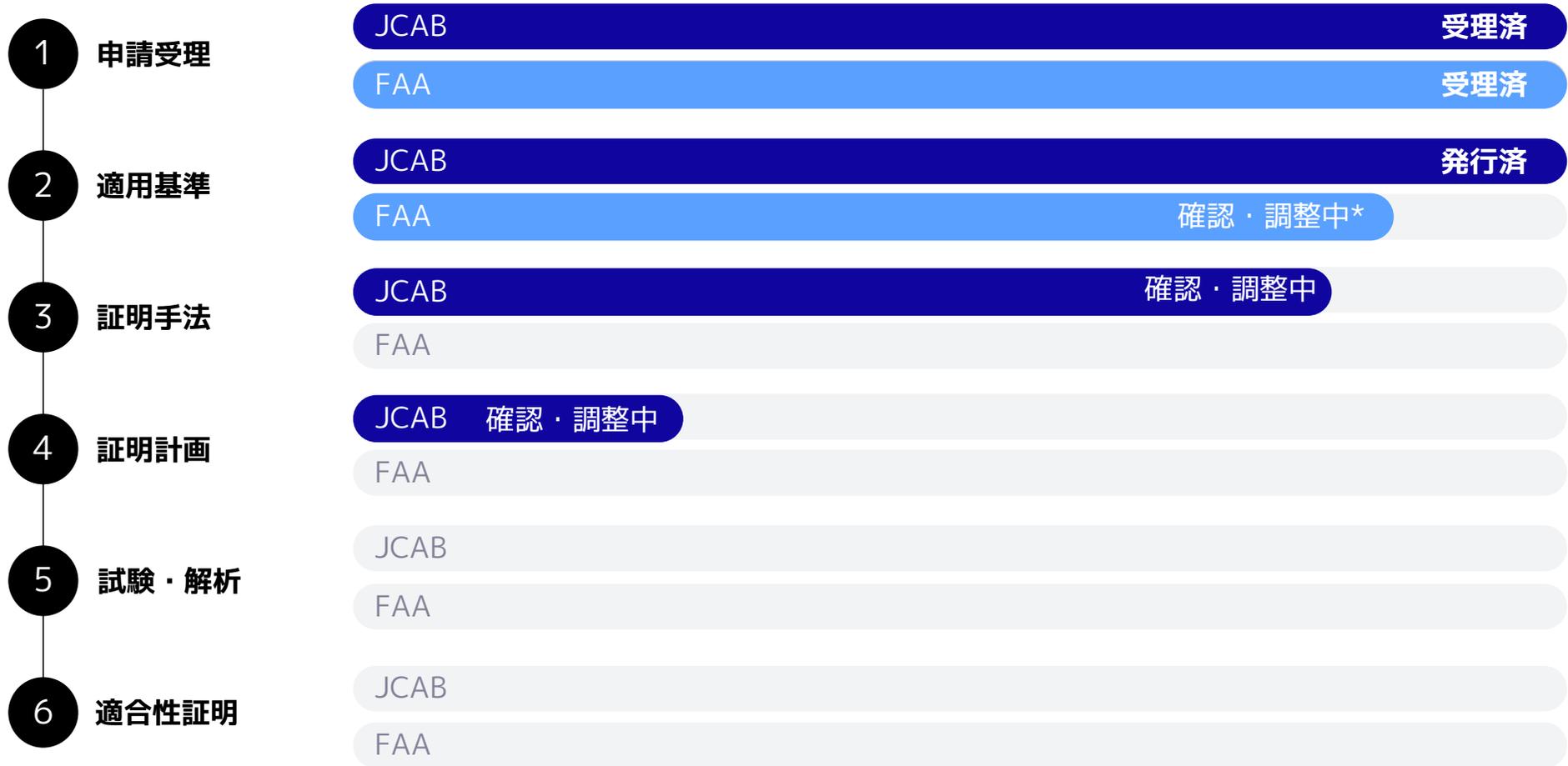
- ・ 12個のローターを含む駆動部、コックピットシステム等、重要コンポーネントを全て冗長化
- ・ 旅客機と同様、単一部品が故障しても安全な飛行を維持

安全性の為の冗長設計について

飛行性能に関わるシステムは、**3重以上の冗長性を確保し**、
型式証明取得に必要な「10のマイナス8乗」、
ようは飛行時間1億時間に1回以下の故障という安全性を実現する



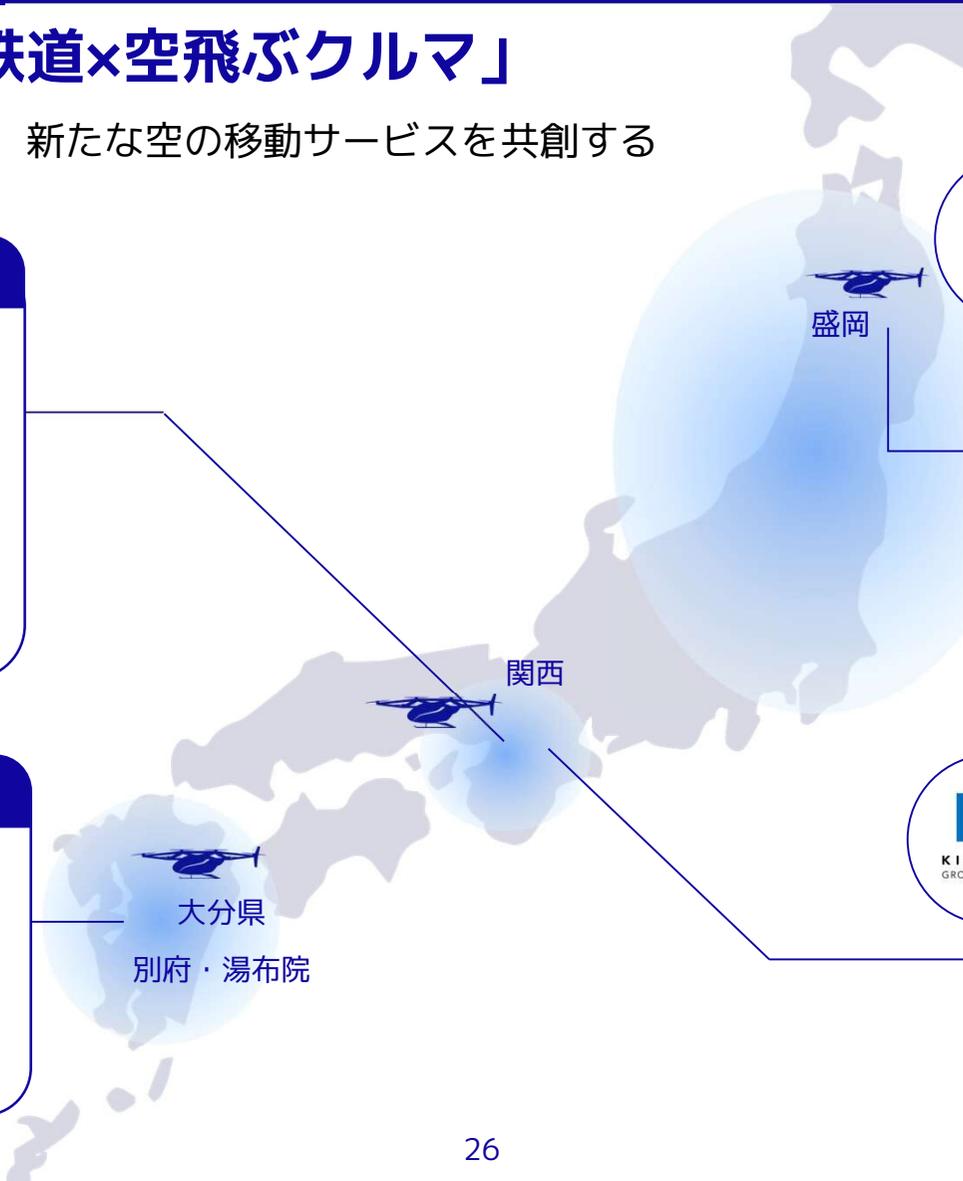
日本（JCAB）と米国（FAA）におけるSkyDriveの認証プロセス進捗



*SkyDrive SD-05型のJCABの適用基準は、SkyDriveが想定しているFAAの同等基準と同一の要件が約80%含まれています。

日本での展開戦略「鉄道×空飛ぶクルマ」

日本の主要な鉄道会社と連携し、新たな空の移動サービスを共創する



大阪市高速電気軌道（株）

取り組み状況

- 2024年8月、資本業務提携を締結。
- 2024年12月、「大阪ダイヤモンドルート構想」を両社で発表。

デモフライトの実施

- 2025年8月、Osaka Metroが同年3月に整備した、空飛ぶクルマ専用「大阪港パーティポート」にて、デモフライトを実施。

東日本旅客鉄道（株）

取り組み状況

- 2025年5月、新たな移動体験による価値創造の推進を目的として資本業務提携を締結。2026年春に「小岩井農場」の地に開業する「AZUMA FARM KOIWAI」での「空飛ぶクルマ」の活用を計画。

プレオーダー

- 2025年8月、「SKYDRIVE」1機のプレオーダーを合意。

九州旅客鉄道（株）

取り組み状況

- 2025年2月、九州エリアにおける「空飛ぶクルマ」の社会実装と事業化を目指し、大分県と3者で包括連携協定を締結、湯布院－別府間など大分県内のルート構想を発表。
- 2025年7月、資本業務提携を締結。

近鉄グループホールディングス（株）

取り組み状況

- 2022年4月、「空飛ぶクルマ」の実現に向けた検討を加速させることを目的に資本業務提携を締結。

JR九州と「空飛ぶクルマ」運航を目指し連携協定締結

- 2028年度頃に別府湾での遊覧サービス、別府市内でのエアタクシー、別府と湯布院をつなぐエアタクシーの運航開始を想定
- 2030年以降は、湯布院、九重、玖珠、奥日田エリアを結ぶ移動、大分市内から別府や湯布院エリアへの移動、大分空港から別府市内や大分市内へのエアタクシーサービスの提供等の拡大をイメージ



Osaka Metroと大阪ダイヤモンドルートを構想

- Osaka Metroの社長直轄の「空飛ぶクルマ推進室」とともに、2024年12月には両社で空飛ぶクルマの「大阪ダイヤモンドルート」構想を発表
- **2028年を目途に森之宮エリア**でのサービスを開始し、2030年以降に向けて、サービスを順次拡大することを目指し検討中

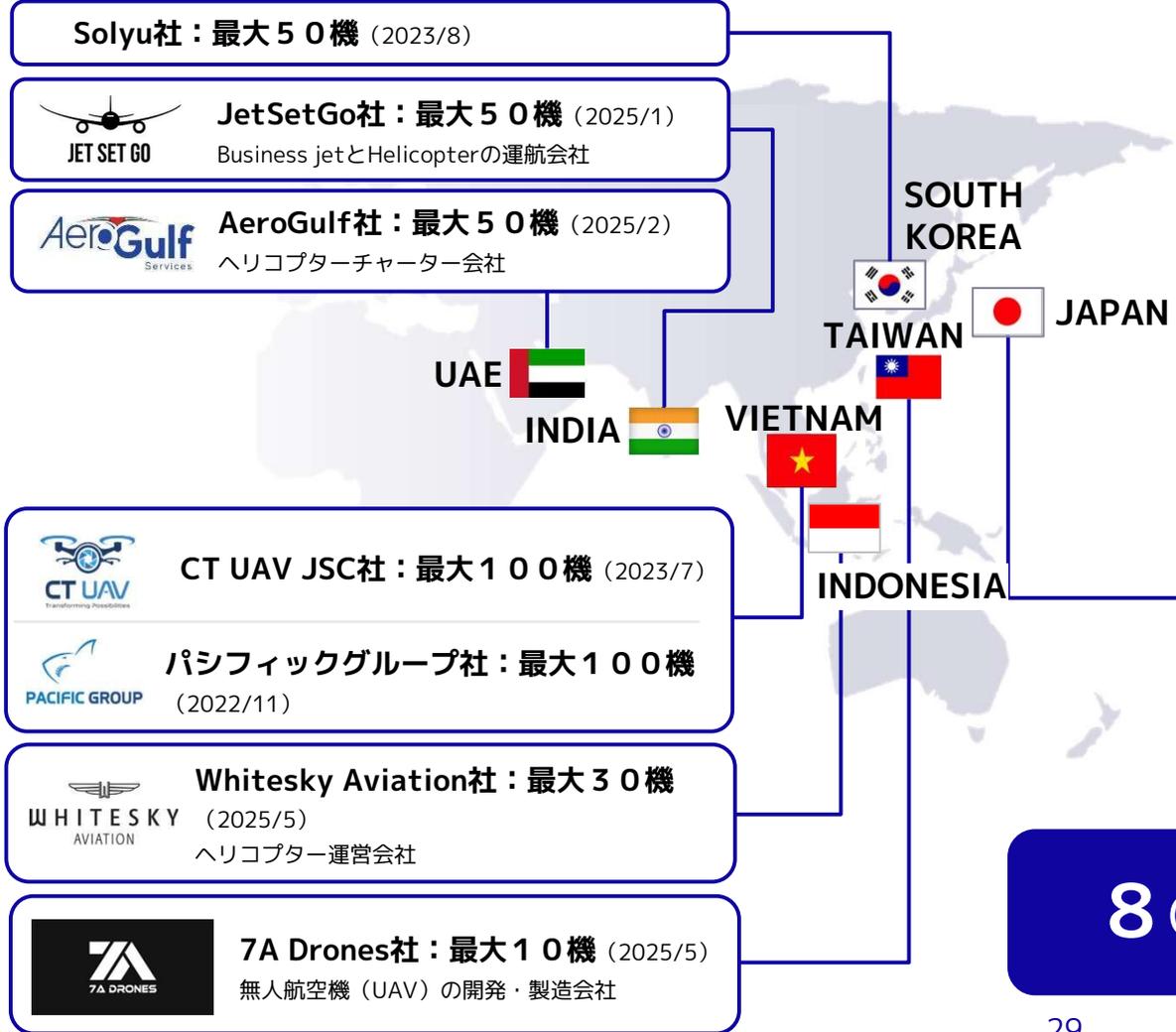


*2030年以降のルートイメージであり確定したものではありません
*Google Mapをもとに作成



* Google Earthを元に作成。Data: AirbusLandsat / CopernicusData SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCOTMap Mobility

現在のプレオーダー状況（2025年12月時点）



AUSTIN AVIATION Austin Aviation社：5機（2023/7）
チャーター機運航会社

BRAVO air Bravo Air社：5機（2024/3）
チャーター機運航会社

SAI SAI社：10機（2024/11）
チャーター機運航会社

USA

株式会社 長大 長大：1機（2025/05）
総合建設コンサルタント

MASC 一般社団法人 MASC：1機（2023/11）
航空・宇宙分野で地域貢献する未来価値創造団体

大豊産業株式会社 大豊産業：1機（2023/04）
トータルエンジニア企業

JR東日本 JR東日本：1機（2025/08）
旅客鉄道会社

個人：1機（2023/04）

8 Countries 415 Pre-orders



新しいモビリティで生活を豊かに！

日本発のディープレックスタートアップ
として産業創出！



Arnaud Coville

アーノード・コービル

最高開発責任者 CTO

2023年1月 入社

前職

Volocopter CTO
エアバスグループ



Nobuo Kishi

岸 信夫

航空安全統括管理者 CTO

2020年4月 入社

前職

三菱航空機 株式会社 副社長



Adam Hollis

アダム・ホリス

**エアモビリティ調達部
部長**

2024年4月 入社

前職

ロールス・ロイス社



Akio Ochi

越智 章生

チーフエンジニア

2022年9月 入社

前職

川崎重工業株式会社

採用情報はこちら



スカイドライブ 採用

Thank you !



HP/日本語



HP/English



Facebook



YouTube



Inquiry